

## オーストリアの偉大な発明家、先駆者たち

(Dr. Hubert Weitensfelder 執筆文の翻訳引用有)

### 19 世紀の産業革命におけるオーストリアの発明

ハプスブルク帝国は領土内で非常に経済的格差のある国家でした。産業革命以前に産業や工業が独自に発展し、その水準がヨーロッパの平均をはるかに超える地域がある一方、帝国の東や南の地域には依然として農業地帯が広がっていたのです。

これから皆様に 19 世紀前後、オーストリアで技術発展に貢献した発明家とその発明品などをご紹介します。これらの発明品は、オーストリア国内や旧ハプスブルク帝国の国々の様々な博物館で所蔵されており、なかでもウィーン産業技術博物館のコレクションは幅広く、多彩な展示品を誇っています。

### ウィーン産業技術博物館について

1908 年、皇帝フランツ・ヨーゼフ 1 世の統治 60 周年を記念し、ウィーン産業技術博物館が開館されました。1909 年の起工式には皇帝が立会い、開館式は 1918 年に行われました。1992 年から 1999 年には大々的な改修工事が行われ、中庭ホールの天井のガラス連結部が一段高くなるように改築されました。また入口の前には、ガラスのテラスが玄関ホールとして設置されました。この建物は、オーストリアで最初の鉄筋コンクリートで作られた代表的建築物のひとつです。



ウィーン産業技術博物館（絵葉書・1920 年）



ウィーン産業技術博物館内部（絵葉書・1920 年）



ウィーン産業技術博物館



ウィーン産業技術博物館  
(写真提供:ウィーン産業技術博物館)

## 技術科学者、発明家

ヨーゼフ・マダースペルガー (Josef Madersperger, 1768-1850)

チロル州のクフシュタイン出身。ウィーンで数十年間、現在のミシンにあたる裁縫機械の研究・開発に取り組み、裁縫を機械化した当時のイギリス、フランス、ドイツなどのパイオニアのひとりとなる。1815年、特許を取得するが実用化はせず、その後もたくさんの試作品を作った。最後の作品は1838年、当時の帝国技術専門学校(現・ウィーン工科大学)に寄贈された。彼の死後間もなく、アメリカでアイザック・メリット・シンガーらが製作したミシンが商業的に実用化された。

(Dr. Hubert Weitensfelder 執筆)



マダースペルガーが発明したミシン  
(写真提供:ウィーン産業技術博物館)



ヨーゼフ・マダースペルガー  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

ペーター・ミッターホーファー (Peter Mitterhofer, 1882年-1893年)

オーストリア・ハンガリー二重帝国のメラン(現イタリア・南チロル)出身。大工・指物師をしていた実家で技法を学び、ヨーロッパ各地を周り、1864年にタイプライターの開発にとりかかり、タイプライターの発明者といわれる。初めての作品である「ウィーンモデル 1864」は木製で、針や紙なども使用して作成されたが、未完成のまま試作品として現在ウィーン産業技術博物館に展示されている。また現在ドレスデン市立技術博物館に展示されている2作目「ドレスデンモデル」にはタイプ部分に金属を使ったもので、その際、フランツ・ヨーゼフ皇帝に作品の完成のための金銭的援助を求める手紙を送り、協賛金を得た。その後改良を重ねたが、やがて宮廷の鑑定家から評価を失うと情熱を失っていった。1868年タイプライターはアメリカのクリストファー・レイサム・シヨールズらによって実用化されたが、それに関わることはなかった。



ウィーンモデル 1864  
(写真提供:ウィーン産業技術博物館)



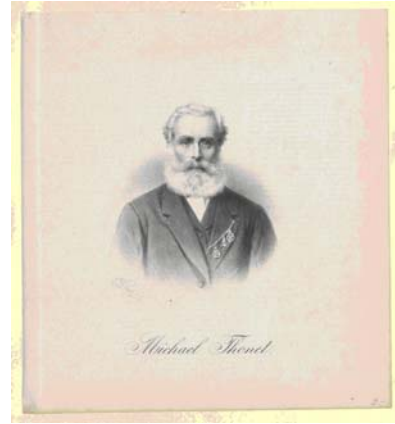
ペーター・ミッターホーファー

**ミハエル・トーネット** (Michael Thonet, 1796 年-1871 年)

ドイツのラインラント州＝プファルツ州ボツパルト出身。オーストリアへ移住後、オーストリアの工業・産業の発展に貢献した。1830 年頃、にかわを利用し木材を組み合わせる方法を開発し、この発明により、生涯、曲木による家具の製作に取り組むこととなる。彼の発明は、木材を原材料とした全く新しい造形技術の開発につながった。1842 年にはウィーンへ移住し、貴族クラスの顧客を獲得した。1856 年には息子と共に、ブナ材の産地であるモラヴィア（現在のチェコ東部）とハンガリーに工場を設立した。彼が亡くなるまで、トーネット社は約 360 万脚の椅子をあわせると、計約 420 万もの家具を製作した。



曲木による椅子  
(写真提供:オーストリア連邦産業院)



ミハエル・トーネット  
(オーストリア国立図書館)

オーストリアは内陸に位置しますが、1918 年以前の帝国時代ですら特に大きな海軍を保有してはいませんでした。しかし、水力の利用など海運業の発展には大きく貢献していたのです。

(Dr. Hubert Weitensfelder 執筆)

**ヨーゼフ・レッセル** (Joseph Ludwig Franz Ressel, 1793 年-1857 年)

ハプスブルク帝国のボヘミア地方（現チェコ）出身。生涯の大半をアドリア海岸で、営林職員として勤務するかたわら、様々な研究や発明を行い、1812 年に蒸気船の推進器となるスクリューを開発した。このスクリューは彼にちなみ「レッセル・スクリュー」と名付けられた。

決して裕福ではなかったレッセルは、トリエステの大商人のもとで、“Civetta”という名の船の造船にかかわり、このスクリューの試作品の取り付けに成功する。しかし 1829 年の試航海では、蒸気機械の引込線から 2 本のマストへスクリューの動力が伝わらず、当局は再度の実験を許可しなかった。それから約 10 年後、英国から初めてスクリューを搭載した蒸気船がトリエステ港に到着し、現代的な形で船の動力としてスクリューの実用化に成功したレッセルは自らの発明の認定を求めたが、正式に承認されるには至らなかった。

(Dr. Hubert Weitensfelder 執筆)



レッセル・スクリュー  
(写真提供:ウィーン産業技術博物館)



ヨーゼフ・レッセル  
(オーストリア国立図書館)

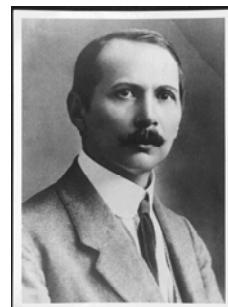
海運業の発展には、興味深いことにモラビア地方出身の2人が貢献をしています。フリッツ・フランツ・マイヤー(1844-1926)は、ウィーンで造船学を学び、1905年流体力学的に優れたボートの形を考え出しました。エルンスト・レオ・シュナイダー(1894-1975)は、機械工、電気技術士で、1926年から1930年の間にフォイト・シュナイダー・プロペラ(Voith-Schneider-Propeller)と呼ばれる新たな船舶用推進器を開発し、この装置によって、旋回性能、コントロール性を向上させました。

### ヴィクトル・カプラン (Viktor Kaplan, 1876年-1934年)

シュタイヤーマルク州出身。ウィーン工科大学で機械工学について学び、チェコのブルノ工科大学の教授となる。水車に関連する特許を4つ取得し、1912年にカプラン水車の発明を発表。羽根の取り付け軸を回転できるようにし、羽根の角度がかえられるプロペラ水車で、従来の羽根が軸に固定されているプロペラ水車から低落差に対応できるようにした革新的な発電用水車で、彼の発明を代表するものである。現在、世界中の至る所の低落差・大流量の水力発電所で広く用いられている。



カプラン水車  
(写真提供:ウィーン産業技術博物館)



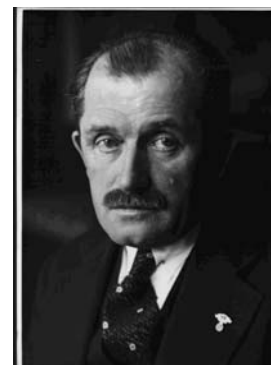
ヴィクトル・カプラン  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

### フェルディナンド・ポルシェ (Ferdinand Porsche, 1875年-1951年)

交通の手段として車の登場は、フェルディナンド・ポルシェ(1875-1951)という名前と切り離せない。ボヘミアの町、マッフェルスドルフのブリキ屋の息子は、ウィーンの電気機器会社で働いていたが、馬車メーカーのローナー社に転職し自動車開発を手がけ、1900年に開催されたパリ万博では、ポルシェが開発したローナー社の電気自動車が出品された。数年後、彼はヴィーナー・ノイシュタット市にあるアウストロ・ダイムラー社に移り、後にドイツのシュトゥットガルトにあるダイムラー社に勤めることとなる。1931年ポルシェはトーションバー・スプリングの特許を出願したが、これは後に小型車の重要部品として利用されている。1934年には、当時のドイツ政府が提唱した国民車計画(フォルクスワーゲン)の要請を受け開発にあたった。4年後、ニーダーザクセン州のヴォルフスブルクにフォルクスワーゲンの工場建設が始まった。第二次世界大戦中は戦車の設計にも携わったが、戦後に戦犯として逮捕され2年間を刑務所で過ごした。1948年ケルンテン州のグミュントでポルシェのスポーツカー第一号が誕生した。



ローナー社製電気自動車, 1900年  
(写真提供:ウィーン産業技術博物館)



フェルディナンド・ポルシェ  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

**カール・アウアー・フォン・ヴェルスバッハ** (Carl Auer von Welsbach, 1858年-1929年)

ウィーン出身。ウィーン大学、ハイデルベルグ大学で数学、化学、物理学、熱力学を学んだ後、ウィーン大学にもどり希土類元素の研究を行った。1885年に自ら考案した装置で希土類元素のプラセオジウム、ネオジウムを分離、発見。1886年には、ガス灯に金属化合物をふくませた綿をかぶせることによって、明るさを増すガスマントルを発明し特許を得る。ガスマントルはヨーロッパ中に広まり、その後の改良によりオスミウムのワイヤの製造方法を発明した。この技術は電球のフィラメントの製造法に発展し、電球の明るさ、耐久性の大幅な向上をもたらした。

また1903年にはライターの発火に使われる、セリウム70%鉄30%の合金の発火石の特許を取得、1907年ケルンテン州のトライバッハにトライバッハヒェミッシェンヴェルケ社(現・トライバッハインダストリー株式会社)を設立した。



カール・アウアー・  
フォン・ヴェルスバッハ

**アロイス・ゼネフェルダー** (Alois Senefelder, 1771年-1834年)

ハプスブルク帝国のプラハ(現チェコ)出身。演劇を生業とする環境に育ち、自作の戯曲の印刷化を計画するが、当時の木版や銅版の版材は高価であり、技術的な修練をも必要とするため、自らエッチングで印刷用の原版を作ろうとした。1796年、インクを練る台として石灰石を購入し、その石に油性のクレヨンで書き付けをして、後に洗い落とそうとしたが痕が残ったままで、その部分に油分が付き、それ以外の部分に水がしみ込む事に気がつく。このように板を彫ったりして凹凸を作らずに、平面のままの印刷用原版を作る石版印刷(リトグラフ)の原理を発見、2年後、石版印刷に必要なプレス機を作り、転写法を完成させ、印刷技術の進歩に貢献した。



アロイス・ゼネフェルダー  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

**パウル・シュヴァルツkopf** (Paul Schwarzkopf, 1886年-1970年)

オーストリア・ハンガリー二重帝国のプラハ(現チェコ)出身。1910年にプラハ工科大学で博士号を取得後、熔融法の対極に位置するとも言える金属の製造方法であるパウダーメタラジー法を研究し、現在リフラクティーメタル業界で世界最多の製品群を誇る国際企業プランゼー・グループの礎となる Metallwerk PLANSEE 社を1921年に設立した。



パウル・シュヴァルツkopf  
(写真提供:プランゼー社)

### アンセルム・フランツ (Anselm Franz, 1900 年-1994 年)

シュタイヤーマルク州出身。グラーツ工科大学で機械工学を学んだ後、ベルリン大学で博士号を取得、ベルリンの会社で設計技師として働いていた時期、\*1 油圧トルクコンバーターを開発した。1939 年、ユンカース発動機会社に移り、航空機エンジン用機械式過給機と\*2 ターボチャージャーの開発を担当、空軍省の下附で専用設計チームを組織し、ターボジェットエンジンの開発を行った。このターボジェット「ユンカース・ユモ 004 (Junkers Jumo 004)」は、世界で初めて実用化され、実戦投入された軸流式ターボエンジンである。戦後はアメリカでエンジン関連の仕事に携わり、ヘリコプターエンジンの分野でも大きな功績を残した。



アンセルム・フランツ  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

\*1 トルクコンバーター: オイルの粘性を利用して、エンジンの動力を変速機の軸に伝えるもの

\*2 ターボチャージャー: 排気ガスの圧力を利用してタービンを回し、エンジンに吸入する空気の圧力を上げる装置

### ハンス・ホルビガー (Hanns Hörbiger, 1860 年-1931 年)

ウィーン出身。1896 年に初の鋼板製バルブを製作、「ホルビガー・バルブ」と名付けた。1970 年にホルビガー社はオーストリア企業として初めて日本法人を立ち上げた。現在ホルビガー社は 62 の拠点を持つ。数多くの革新的オーストリア企業は現在、自社開発・研究の成果である先端技術製品を日本に向けて供給している。2007 年には 5 億 2200 万 US ドルもの機器が日本向けに輸出された。



ハンス・ホルビガー  
左端のひげの人物  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

## 科学者

**ヨハン・クリスチャン・ドップラー** (Johann Christian Doppler, 1803 年-1853 年)

ザルツブルクの新市街、モーツァルトが旧市街の生地から移転したマルクト広場に生まれる。ウィーン大学、ザルツブルク大学に学んだ物理学者、数学者。観測者と震動源との相対運動によって振動数が変化することを詳しく調べ、1842 年にそれを数学的な関係式をつくった。いわゆる「ドップラー効果」とよばれるこの現象は、オランダ人の化学者・気象学者であるクリストフ・ボイス・バロットが、1845 年オランダのユトレヒトで、列車に乗ったトランペット奏者が G の音を吹き続け、それを絶対音感を持った音楽家が聞いて音程が変化する事で証明した。この「ドップラー効果」は、後に膨張宇宙の確認に応用され、天文学にも貢献した。1850 年ウィーン大学物理学研究所の所長に就任。メンデルは、教え子の一人。



ヨハン・クリスチャン・ドップラー  
(写真提供: オーストリア国立図書館)

**グレゴール・ヨハン・メンデル** (Gregor Johann Mendel, 1822 年-1884 年)

ハプスブルク帝国のブルノ(現チェコ)出身。奉職していた修道院から才能を認められ、ウィーン大学で数学(統計学)と物理学を学ぶ。統計学の知識を植物の遺伝の研究に利用し、7年にわたるエンドウ豆の実験により 1865 年、現在メンデルの法則として知られている、遺伝的形質が次の世代へと受け継がれていくという法則を発見した。当時、遺伝現象は知られていたが、遺伝形質は交雑とともに液体のように混じりあっていくと考えられていた。メンデルの業績はこれを否定し、遺伝形質は遺伝粒子(後の遺伝子)によって受け継がれるという粒子遺伝を提唱したことである。



グレゴール・ヨハン・メンデル  
(写真提供: オーストリア国立図書館)

**ルートヴィヒ・エドゥアルト・ボルツマン** (Ludwig Eduard Boltzmann, 1844 年-1906 年)

ウィーン出身の物理学者。統計力学の基礎を築き、マクスウェルらに続いて気体分子運動論を研究し、完成させたことで知られる。1866 年にウィーン大学でヨーゼフ・シュテファンに学び、ウィーン大学教授、グラーツ大学教授などの教職につく。原子という概念が信用されなかった当時、原子の存在を前提とした\*1「H 定理」と\*2「ボルツマンの原理」を提唱した。音楽や詩などの芸術を好み、少年時代にはアントン・ブルックナーからピアノの手ほどきを受け、生涯にわたりピアノ演奏を好んだ。



ルートヴィヒ・エドゥアルト・ボルツマン

(写真提供: オーストリア国立図書館)

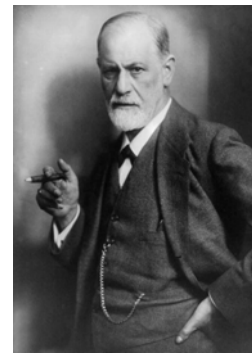
\*1 H 定理: 1872 年、"原子間の衝突による速度分布の時間的変動に関する方程式"(ボルツマン方程式)の考察から導かれた定理。熱力学第二法則を分子論的に説明するもの。

\*2 ボルツマンの原理: 1877 年に提唱され、 $S = k \log W$  という関係式で、エントロピーの統計力学的解釈をあらわし、現在熱力学や統計力学ではさまざまな形で使用されている。

**ジークムント・フロイト** (Sigmund Freud, 1856 年-1939 年)

ハプスブルク帝国のフライベルク(現チェコ)出身。3 歳の時にウィーンに移り住む。ウィーン大学で学び、パリ留学後、開業医として生計をたてる傍ら研究にも勤しみ、「精神分析」という治療方を創始する。人間とその行動をより理解する上で、非常に大きな役割を果たし、「精神分析の父」としてその名を歴史に刻んだ。

また、オーストリア人精神科医アルフレッド・アドラーとスイス人精神科医カール・ユングとともに研究活動にあたった。両者は後に、心理学上の実践を独自に展開した。夢を学術的研究の対象とし、『夢判断』をはじめとして多くの著作を残した。



ジークムント・フロイト  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

**フリッツ・プレーゲル** (Fritz Pregl, 1869 年-1930 年)

オーストリア・ハンガリー二重帝国のリュブリャナ(現スロベニア)出身。グラーツ大学で医学の博士号を取得後、グラーツの応用医科学研究所、インスブルック大学、グラーツ大学で教鞭をとる。医化学のための化学分析法を研究し、ごく微量の試料から臨床的な化学分析を可能にした。それによってホルモンや酵素、代謝についての研究を行った。1923 年に有機化合物の微量分析法の開発の功績によってノーベル化学賞を受賞した。インスブルックには彼を記念したフリッツ・プレーゲル通りがある。



フリッツ・プレーゲル  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

**ヴィクトール・フランツ・ヘス** (Victor Franz Hess, 1883 年-1964 年)

シュタイヤーマルク州出身の物理学者。1910 年にグラーツ大学に学び、ウィーン大学などで放射線の研究を行った。当時検電器に蓄えられた電荷が自然放電するのは、地球内部からの放射線によるものと考えられていたが、1912 年、気球を用いた放射線の計測実験を繰り返し、地球外から飛来する放射線である宇宙線を発見した。1936 年この功績でノーベル物理学賞を受賞。グラーツ大学教授、インスブルック大学教授を経て、1938 年に渡米。ニューヨークのフォーダム大学教授となった。



ヴィクトール・フランツ・ヘス  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

**エルヴィン・ルドルフ・ヨーゼフ・アレクサンダー・シュレーディンガー**

(Erwin Rudolf Josef Alexander Schrödinger, 1887 年-1961 年)

ウィーン出身の理論物理学者。ウィーン大学で物理学を学び、イエナ、シュトゥットガルト、プレスラウなどの大学で講師をつとめた後、チューリッヒ工科大学、ベルリン大学、グラーツ大学、ウィーン大学で教授職についた。原子内電子の振る舞いを記述する波動方程式を定式化して(シュレーディンガー方程式)波動力学の基礎を築き、波動力学がハイゼンベルクらの行列力学と数学的に同等であることを証明して、量子力学の確立に大いに貢献した。彼が行った量子論に関する思考実験は、「シュレーディンガーの猫」と言われ、一般にも広く知られている。1933 年にこの分野における功績により、ノーベル物理学賞を受賞した。



エルヴィン・ルドルフ・ヨーゼフ・アレクサンダー・シュレーディンガー  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

**リヒャルト・クーン** (Richard Kuhn, 1900 年–1967 年)

ウィーン出身の生化学者。ウィーン、ミュンヘンで化学を学んだ後、ミュンヘン、チューリッヒ工科大学、ハイデルベルク大学に属しカロテノイドや立体化学、ビタミン、酵素を研究した。初めてビタミン B を分離し、カロテノイドと酵素の研究により、1938 年にノーベル化学賞を受賞。サケ・エビ・カニ・緑藻など主に海洋生物に多く含まれている赤い色素成分で、抗酸化力が非常に強いアスタキサンチンを発見した。



リヒャルト・クーン  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

**ヴォルフガング・エルンスト・パウリ** (Wolfgang Ernst Pauli, 1900 年-1958 年)

ウィーン出身で、相対性理論と量子論が専門の物理学者。ミュンヘン大学で博士号を取得後、ゲッティンゲン大学、コペンハーゲン大学に滞在し、ハンブルク大学の講師を務めていた 1924 年、「排他律」に基づく\*1「パウリの原理」を発見し、今日の核物理学の基礎を築いた。1945 年、この功績によりアインシュタインの推薦をうけ、ノーベル物理学賞を受賞。また非相対論的スピン理論の定式化、未知の中性粒子ニュートリノの存在仮説の提唱でも功績がある。また精神を患って出会ったカール・ユングとも交流があり、深層心理学における\*2「シンクロニシティ」の概念について共同で研究を行った。



ヴォルフガング・エルンスト・パウリ  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

\*1 パウリの原理: 原子の中の一つの軌道に2個の電子が入ることは許されないという原理

\*2 シンクロニシティ: 何か二つの事象が発生し、因果性では関係を持たないのに、繋がりがあられると思われる現象(相関性)が生じること。意味のある偶然の一致。

## 経済学者

**カール・メンガー** (Carl Menger, 1840年-1921年)

ハプスブルク帝国のガリツィア(現ポーランド)出身で、経済学におけるオーストリア学派(限界効用学派)\*1の第一人者。イギリスのウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ、スイスのレオン・ワルラスらと共に限界効用理論の創始者として、近代経済学の創始者の一人に挙げられる。1871年『国民経済学原理』を出版し、ウィーン大学経済学の教授となり、ハプスブルク家ルドルフ・オーストリア皇太子の家庭教師をも務めた。後にドイツ歴史学派と経済学における方法および認識論的特質をめぐる論争を起こした。



カール・メンガー

(写真提供:オーストリア国立図書館)

\* 限界効用学: さまざまな財(商品)を消費ないし保有することから得られる効用(欲求)を考えたとき、財(商品)に価値を与えるのはその生産に要する労働や生産費などではなく、ある財(商品)をもう1単位だけよけいに消費ないし保有することにより可能になる消費者の主観的効用(心理的欲求)だと主張する理論。

**ルートヴィヒ・フォン・ミーゼス** (Ludwig von Mises, 1881年-1973年)

オーストリア・ハンガリー二重帝国のレンベルク(現ウクライナ)出身。カール・メンガーの『国民経済学原理』に影響を受けた経済学者で、20世紀の自由なオーストリア学派を代表する人物のひとりであった。オーストリア帝国財務省、オーストリア商工会議所、ウィーン大学に勤務後、スイスでの生活を経て、アメリカに渡り、ニューヨーク大学で教職についた。生涯にわたり社会主義計画経済を批判し続け、古典的自由主義のために広範な著述や講演をおこなった。フリードリヒ・ハイエクの師で、またファシズムを左翼に分類した点で画期的であり、貨幣的景気理論も有名である。



ルートヴィヒ・フォン・ミーゼス

(写真提供:オーストリア国立図書館)

**ヨーゼフ・シュンペーター** (Joseph Alois Schumpeter, 1883年-1950年)

オーストリア・ハンガリー二重帝国のトリーシュ(現チェコ)出身。ウィーン大学で法学を学び、グラーツ大学などで教鞭をとった後、オーストリア政府の財務相やビーダーマン銀行総裁を務めた。1931年には初めて来日し、各地で講演をおこなっている。1932年にハーヴァード大学に招かれ、計量経済学会会長、アメリカ経済学協会会長などにも就任した。フランスのレオン・ワルラスによって創始された\*一般均衡理論を重視し、資本主義経済の発展が不断のイノベーション(企業内技術革新)にあると唱え、近代経済学の理論家としてケインズと並び称される。また社会学的アプローチによる研究でも有名であり、1942年には、この分野の主著『資本主義・社会主義・民主主義』を著した。主な著書は他に『理論経済学の本質と主要内容』『経済発展の理論:企業者利潤・資本・信用・利子および景気の回転に関する一研究』『経済学史:学説ならびに方法の諸段階』『景気循環論:資本主義過程の理論的・歴史的・統計的分析』などがある。



ヨーゼフ・シュンペーター

(写真提供:オーストリア国立図書館)

\* 一般均衡理論: 「すべての財の市場で需要と供給の一致が成り立つ」という状況を数学的に分析しようとする理論。

**フリードリヒ・アウグスト・フォン・ハイエク** (Friedrich August von Hayek, 1899 年-1992 年)

ウィーン出身の経済学者、哲学者で、ルードヴィヒ・フォン・ミーゼスと共に 20 世紀オーストリア学派\*1 を代表する学者の一人であった。経済学、政治哲学、法哲学、さらに心理学にまで渡る多岐な業績を残し、20 世紀を代表するリバタリアニズム思想家\*2 で、1974 年、貨幣理論および景気循環理論などの研究により、ノーベル経済学賞を受賞。その思想は、後の英国のマーガレット・サッチャーや米国のロナルド・レーガンによる新保守主義・新自由主義の精神的支柱となった。ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインは母方の従兄弟にあたる。



フリードリヒ・アウグスト・  
フォン・ハイエク

(写真提供:オーストリア国立図書館)

\*1 オーストリア学派: 1870 年代以後ウィーン大学を中心に栄えた限界効用理論を基礎とする経済学の一派。限界効用の原理を軸にした価値論によって形成された学派。

\*2 リバタリアニズム: 他者の権利を侵害しない限り、個人の自由を尊重し、国家による個人活動への介入を最小限にとどめるべきだとする政治思想

**オスカー・ Morgenstern** (Oskar Morgenstern, 1902 年-1977 年)

ウィーンで大学を卒業後、景気動向調査研究所の所長を務め、1935 年から 1938 年まで教授として教鞭をふるった。オーストリア学派の中で育ったものの、完全予見を否定する論文を書く異端児で 1938 年にアメリカ合衆国に渡りプリンストン大学に奉職し、経済研究プログラムの主任を務めた。ハンガリー生まれのジョン・フォン・ノイマンの生み出した\*1 ゲーム理論の重要性を見抜いて共同研究し、経済学に応用した。1944 年にはノイマンと『ゲームの理論と経済行動』を出版した。1963 年にはパウル・F・ラザースフェルドと共に、ウィーン高等研究所 (IHS) を設立し、1970 年まで所長を務めた。日本ゲーム理論の父である鈴木光男の師である。



オスカー・ Morgenstern  
(写真提供:オーストリア国立図書館)

\* ゲーム理論: 複数の当事者(プレイヤー)が存在し、それぞれの行動が影響を及ぼしあう状況(ゲーム)において、各人の利益(効用)に基づいて相手の行動を予測し意思決定を導くプロセスを分析する学問